

木造建築

京大が新工法共同開発

耐震性優れ、コスト安く

京都大学(京都市左京区)は十四日、建設部材メーカーなどと共同で、耐震性に優れるうえに、コストも安い木造建築工法「j・Pod(ジエイ・ポッド)」を開発したと発表した。

同工法は木製部材を組み合わせた角型の二つのフレームに鋼板を挟んで結合。この部材を使って十平方メートルの木製ユニットを

つくり、部屋の広さに応じてユニットを組み合わせていく。この方法は工期が短くて済み、震度7の地震にも耐えられる強度をもつという。また、コストは従来の木造プレハブ住宅の約60%程度と、大幅なコスト低減が図れる。

同大学フィールド科学研究所の北白川試験所(京都市左京区)に部屋の広さが三十平方メートルのモデル施設を設けた。工費は三百万円。

開発にあたった田中克・フィールド科学教育研究センター長は「災害時の仮設住宅をはじめ、一般住宅にも利用できる」と話している。京大では今後、開発に携わった企業と協力して普及を目指していく。